親父に教わった100の考え方 その6

夫婦円満のスペシャルなコツ

結婚前提の彼女を伴い実家に帰った時の話だ。家には息子が将来のお嫁さんを連れて帰ってくるという事で、食事を用意して待っていてくれた。挨拶もほどなく終わり、ご馳走にお酒も出て楽しく歓談をしていた。と、親父が、「夫婦円満のコツ」を教えると言い出した。

「新婚の時は好きな気持ちが勝つが、家族になるとアラも見えて腹がたつ。それは当たり前やから気にせんでええ。けど、ありがとうの言葉は忘れたらイカン」と話す親父。ここまではよく聞く話。もっと素晴らしい何があるのかと次の言葉を待った。「ここからがスペシャルや。ありがとうだけではあかん」と、親父は話出した。

「他人の前で自分のパートナーを褒めなさい。例えその場にパートナーがいなくても」と親父。「他人に自分の嫁を褒めたら変な奴やと思われる。日本人はお土産渡す時でも、お粗末な品でと謙虚に渡すのが礼儀と思うけど」と言う私に、「品物に対してはそうや。人に対しては違う。人の悪口は、一番誰が聞くと思う？」と親父。私は「聞き上手な人が一番聞くと思う」と答えた。

親父は「違うなぁ一番聞くのは自分や、言ってる本人や」。「確かに」と頷く私に親父は話し続ける。

「だから自分の相棒の悪口を言っていると、子供はもちろん、自分自身も相手のことが思っている以上に嫌いになる」。「逆もまた真実なり。他人に自分の相棒に、私にはもったいないええ人ですとか、私が今あるのは、相棒のおかげですとか言うと、どうや」と親父。

「ほほう」と聞いている私。「するとどうなるかわかるか？相手の嫌な部分が不思議と消えるねん。逆に愛おしくなるねん。感謝でいっぱいになる。褒めてる限り、何年経ってもな」と、諭してくれた。

親父が言ってくれた「スペシャルなコツ」は夫婦に限らず、良き人間関係を築くうえで今でも役に立っている。

大東市　潤吉